

平成30年度 主治医と介護支援専門員との意見交換会 アンケート

○第1部・・・ケアマネ： 57名 医師： 23名 行政： 4名

○第2部・・・ケアマネ： 26名 医師： 16名 行政： 2名

アンケート回収： 40名

職種

介護支援専門員： 30名、看護際： 3名、社会福祉士： 2名、

その他(OT)： 2名、複合職種： 2名、介護事務： 1名

1. 満足度

満足： 37名、やや満足： 1名、未回答： 2名

○その理由

- ・在宅医療のすばらしさ、退院連携の手筈など詳しくわかりやすく学ぶ事ができた。自宅での看取りをする事で家族が笑顔で死を受け入れる事ができるという実感を得た。
- ・在宅医療について実践に基づいた内容で大変よかったですと思います。将来自身が病院か在宅を選択するとしたら、在宅と答えたいです。
- ・看取りは本人様ご家族にとって笑顔が出ると思った。病院より自宅で亡くなられる事を希望していると感じました。
- ・分かりやすくお話があり、スライドも多く、本人や家族の方の満たされた顔を見る事ができ、在宅医療の素晴らしさが分かりました。
- ・ACPの取り組み
- ・これまでは不可能と考える事も無かったような事が、実現可能なことなのだと思えた。大牟田でもネットワークができたらな・・・
- ・事例も多く実情がとても分かりやすかった。
- ・楽しく講義をお受けさせて頂きました。在宅介護の素晴らしさと大変さを聞いて施設ケアでも看取りのあり方を考える機会でした。
- ・いろいろな症例を聞く事ができ大変参考になりました。
- ・看取りに対してすごく関心があったため。
- ・看取りの事例が参考になりました。ありがとうございました。
- ・在宅での看取りで皆さんが笑顔で写真に写られており、在宅での看取りの有意義さを学びました。
- ・どの様に連携されてあるのか、どんな看取りがあったのかなど、とても分かりやすく、家族と本人があつての在宅医療だと思いました。多職種で連携することで、家族や本人の笑顔が見ることが出来ると思いました。
- ・とても面白く聞かせて頂いた。先生に在宅で看取られたいと思った。

- ・分かりやすく在宅医療が理解出来た。
- ・先生が多職種チームで頑張っている話を聞く機会があり良かったです。自分もケアマネとして自分の役割を果たしたいと思いました。やる気が出ました。
- ・多くの看取り事例を聞く事ができた。最短4時間で退院させる、素晴らしいです。
- ・現在、在宅医療をされている中での講演は本当に分かりやすく良かったです。最新の情報も教えていただき参考になりました。
- ・実際の連携の話など分かりやすくお話していただきとても素晴らしい話だった。大牟田も在宅医療が進めばと思いました。
- ・具体的な事例を交えて紹介してもらったので分かりやすい講演会だったです。
- ・沢山の症例を紹介頂き、具体的に在宅医療の素晴らしさ(本人・家族にとって)を感じる事ができた。人生のファイナルステージを満足できるものにできるお手伝いを医療・介護様々な職種で作る仕組みが、まず大切だという事を強く感じた。
- ・在宅看取りの事が分かりやすく説明して頂きました。
- ・とても分かりやすく参考になる話だった。在宅医療が何も特別なことではなく、病室が自宅になっただけで本人や家族の最期の大切な時間を支える事だと思った。
- ・ご本人もご家族も満足できる死。その人らしい最期を支える事の意義を改めて感じる事ができました。
- ・在宅での看取りの基本的かつ重要な考え方を学んだ。

2. 主治医と介護支援専門員の連携についてのご意見をご自由にお書き下さい。

- ・以前より敷居が低くなったと感じられます。今後は、敷居が無くなるように在宅医療連携を図っていきたいです。
- ・ご本人のADLの急な低下や状態変化があった際、訪問診療医より「家族からの発言が無ければ動けない」と言われ困る事があります。ケアマネ、訪看、他サービス事業所、家族と常に話し合いながら代弁して医師にSOSを出しているつもりですが……。周りの声は、家族の声と捉えて頂けない事が多いようです。ご家族の性格や、ややネグレクト傾向がある方は直接医師に言わない事も多々あります。
- ・これまで連携にかかる研修は何度も行われてきているが「在宅ネット・さが」のようなネットワークの形が大牟田でも作り上げられたらいいなと思う。
- ・もっと交流や連携が頻繁に出来ればと良いと思います。
- ・訪問診療をして下さる先生方が少ないため困る。
- ・大きな病院とかになると主治医の方に繋がるまで何処に連絡するか、又何ステップもあるので気おくれしてしまう。また、違うケアマネや他の事業所の事で、厳しい事を言われた事もある。もっと広い目で見て欲しい事や在宅の目線を持って欲しいと思います。
- ・常に情報交換が必要ということ、又それが連携に繋がる事を学びました。カンファには常に入っていく事が大事、ということも参考になりました。
- ・以前よりも主治医との連携はしやすくなったと思います。

- ・自分も高齢になった時、是非在宅医療が当たり前となる事を望む事だったが、どんな地域であっても充実できる日がいずれ来ると思っている。田舎だと医師が街まで行かないといけない場合、入院しか手段が無いのか？と思えるが、連携によってきっと看取りができるだろうと痛感しました。
- ・医師・ケアマネだけでなく多職種との関係性、素早い対応の重要性を学び基本方針の共有が大切だと思った。
- ・在宅医療に熱心な病院や医師が知りたい。ケアマネとの連携に積極的な医師も・・・。
ケアマネからは勇気がいります。
- ・参考になりました。今後活かしていきたいです。
- ・看取りに対する不安感等もあるが、実際の例を紹介して頂き、本人・家族・支える側の支援や方法など聞く事ができ、私達の今後の取り組みの為に非常に役に立つ研修会となりました。
- ・研修会で医師の意見、課題や今後の方向性など検討する場が欲しい。
- ・大牟田は医院やクリニックの医師との連携は上手く出来ていないと感じる。
- ・連携時は密な情報共有が必要だと思います。

3. 医療・介護の連携推進のため、今後どのような交流事業や研修会を希望しますか？ご意見をご自由にお書きください。

- ・このような研修を定期的で開催してもらえれば。
- ・年に1回あればいいと思います。
- ・薬剤師の方の話を聞いてみたい。
- ・今後も本日の様な事例が聞ける研修をお願いしたい。
- ・今日のような研修会を望みます。
- ・他職種連携との事ですが、医師・ケアマネ・理学療法士・作業療法士などいろいろな職種が集まる交流会が良いと思います。
- ・SNSなどを活用して今後大牟田の在宅医療が進めばと良いと感じた。

以上